

第1回認知症高齢者等にやさしい地域づくりに係る関係省庁連絡会議	資料 9
平成25年9月26日	

文部科学省 説明資料

平成25年9月26日

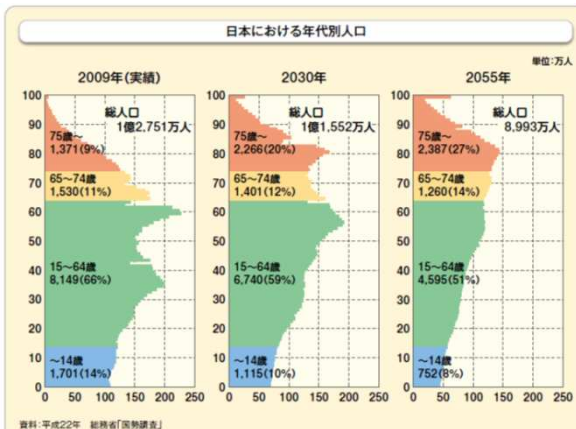
生涯学習政策局社会教育課

我が国の高齢化の現状と課題

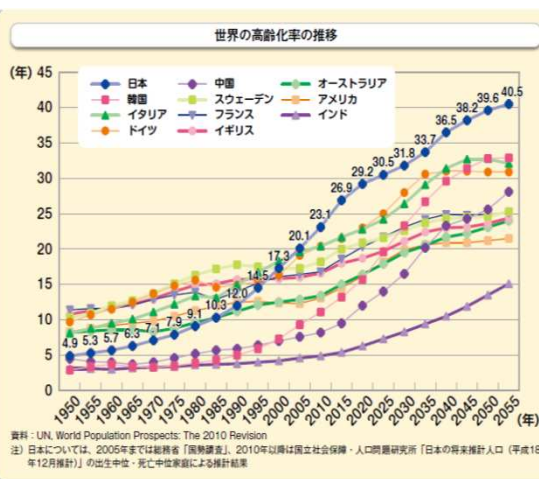
高齢化の現状

高齢化の進展

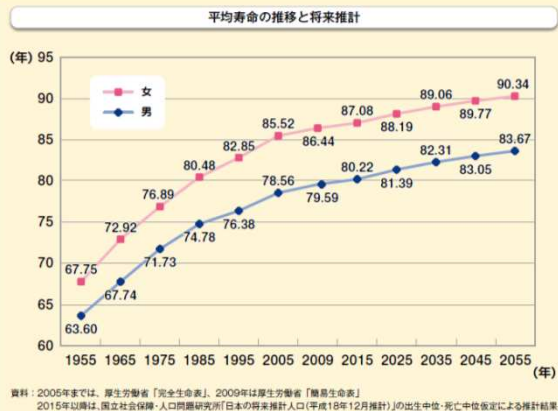
●高齢者は増加し続け、一方、生産年齢人口は減少の一途



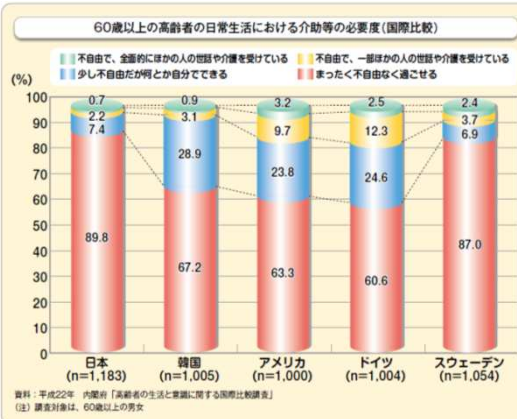
●日本は高齢化のトップランナー



●平均寿命の大幅な伸長による長寿社会の到来



●日本の高齢者の自立度は概して高い



超高齢社会における課題

地域コミュニティの衰退

若年層の減少や後期高齢者の増加により、地域社会の維持運営で基盤である自治会、町会等が劣化し、伝統文化催事、祭、防犯・消防・自主防災活動、介護見守りなどの機能が衰退。

つながりの希薄化

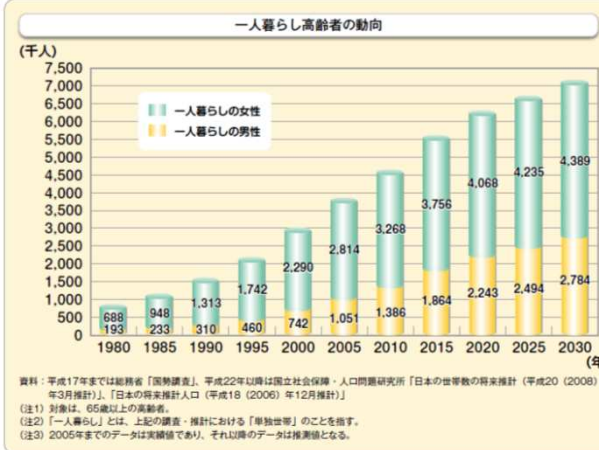
都市化、核家族化など様々な要因により地縁が希薄化。これにより、例えば、虚弱な高齢者や老老介護世帯など支援が必要な者への見守り機能が低下し、高齢者の社会的孤立の増加が懸念。

QOL志向の高まり

成熟社会においては、高齢者の生活の高質化(QOL)志向が高まっており、定年退職後の健康余命の有効活用が課題。

地域社会の変容

●急増する高齢者の単独世帯



●一人暮らし高齢男性で社会的孤立が深刻

性別・世帯タイプ別・会話頻度 (65歳以上)

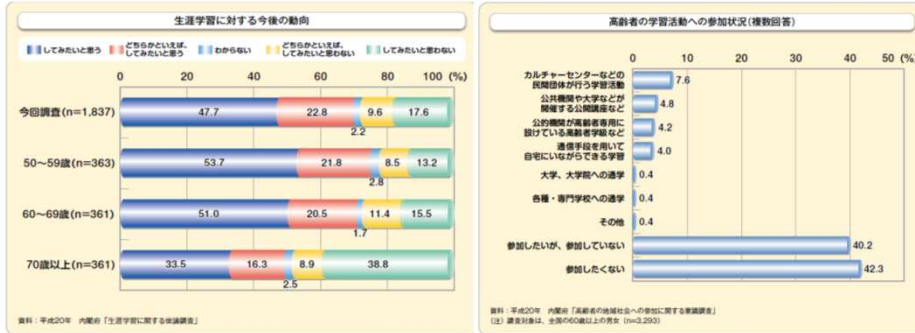
世帯タイプ	総数	会話頻度 (%)			
		毎日	2～3日に1回	4～7日に1回	2週間に1回以下
男性					
単独世帯	252	50.0	18.3	15.1	16.7
夫婦のみ世帯	1,338	85.4	8.1	2.4	4.1
女性					
単独世帯	646	62.8	24.9	8.4	3.9
夫婦のみ世帯	1,026	86.7	8.6	3.1	1.6

資料：平成25年 国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」

高齢者の学習・社会参画に関する現状と課題

高齢者の学習に関する現状と課題

●高齢者の生涯学習への高い意欲と低い参加率



●幸せな人生を支える社会保障としての役割を持つ生涯学習

- 生きがいの創出
- 健康維持・介護予防
- 絆の構築による孤立化防止
- 地域社会の活性化
- 世代間交流 (家庭支援など)



●高齢者の生涯学習の推進に関する課題

学習者の固定化

- 地域における学習者の固定化
社会教育施設、特に公民館などは、地域住民にとっては身近ではあるが、イメージの転換を図らないと利用層が固定化される傾向にある。
- 限られた学習施設
学習者の固定化の影響もあり、地域によっては、利用状況が飽和状態のところもある。特に、高齢者大学など定員が定められているようなところは、年単位での学習がベースとなっており、近くに学習施設がないなど学びたいが学べない高齢者も。

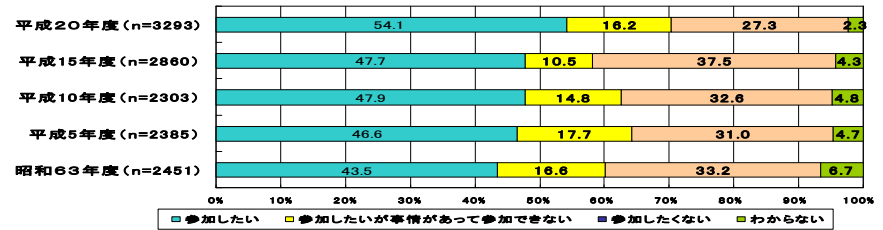
学習内容のミスマッチ

- 高齢者は多様な人生経験と価値観を持つ世代
 - ①世代層・性別・健康状況・経済状況・社会的地位などにより異なる学習ニーズへの対応。(どこに焦点を当て、何を目的とするか。)
 - ②仕事で忙しいプレ高齢期にある人を如何に取り込むか。
 - 多様化する学習観
 - ①知識・技能の高度化のための学び、社会・政治状況の変化に対応・参加するための学び、安全、安心に生きていくための学び
 - ②経済的・時間的なゆとりを背景とした趣味的・文化的なもの(健康、スポーツ含む。)
- 多数の参加が見込まれる内容と行政が求める必要課題等に関する内容との乖離をどのように是正するか。

高齢者の社会参画に関する現状と課題

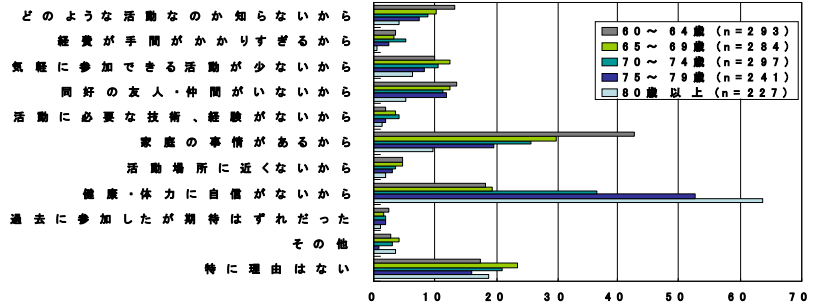
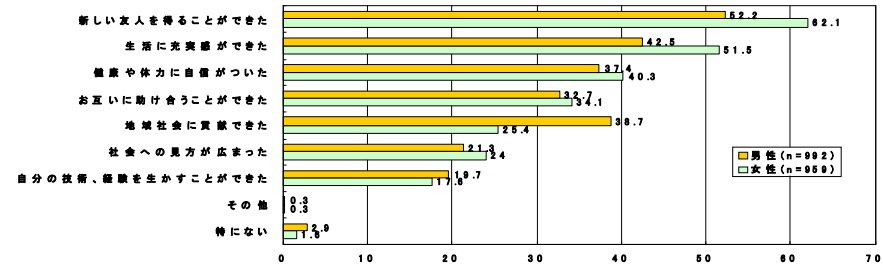
●高齢者の5割強が地域社会への参画に意向。事情があって参加できない者を含めると約7割

地域活動への参加の意向
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成21年)



●社会参画の効果としては、友人ができたこと、生活に充実感ができたことが多い一方で、地域に参加しなかった理由として、友人がいないこと、活動に関する情報がないことをあげている者も多い。

地域活動全体を通じて参加して良かったこと
活動に参加しなかった理由
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成21年) 資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」



地域活動への参加意欲が高い高齢者であっても、実際には、どのような活動があるのかわからない、自分に何ができるのか、何が向いているのかわからないという意見が多く、情報やきっかけがないために活動する場を得ることが困難な人が多いのが現状。

長寿社会における生涯学習政策の基本的方向性と具体的方策

文科省の主な取組

- ① **高齢者の社会参加活動の促進**
 - ・「長寿社会における生涯学習政策フォーラム」の開催
 - ・「学校地域支援本部」や「放課後子供教室」等の実施により、高齢者を含む幅広い世代の地域住民の参画による地域全体で子供を育む環境づくりを支援
- ② **学校における多様な学習機会の確保**
 - ・小・中・高等学校における高齢者との交流活動等を含む体験活動の充実
 - ・大学における社会人受入れや公開講座等の実施、放送大学における大学教育の機会の提供
- ③ **社会における多様な学習機会の提供**
 - ・公民館等を中心としたネットワーク形成の取組支援
 - ・芸術鑑賞の機会の充実、高齢者の体力づくり支援などの多様なスポーツ活動の振興

今後の具体的な方策

- ① 高度化・多様化する学習ニーズに対応するため、学習者の参画による協働型学習プログラムの開発及び提供
- ② 学習活動や地域活動に係る情報の収集・データベース化、ワンストップサービスの整備
- ③ 関係機関の連携の下、コーディネーター人材の養成・研修の充実
- ④ 人材バンクや学習ボランティア登録制度の充実、学校支援や子育て支援など高齢者の活躍の場の充実



今後の方向性

- ① **学習内容及び方法の工夫・充実**
 - ・学習者の参画による多様な学習機会の提供
- ② **世代別の特性への配慮**
 - ・各世代や性別に応じたきめ細かな生涯学習
- ③ **学習が困難な者への支援**
 - ・アウトリーチ型による届ける生涯学習
- ④ **関係機関相互の連携の促進**
 - ・大学等との連携の促進
 - ・教育委員会と首長部局との連携の促進
 - ・地縁組織とNPO等との連携の促進
- ⑤ **学習成果の活用の促進**
 - ・地域活動や就労など活躍する場の提供
- ⑥ **コーディネート機能の整備**
 - ・専門人材が連携協働できる仕組みの構築
- ⑦ **世代間交流の促進**
 - ・知識・経験の伝承、高齢者の居場所づくり



関係機関等の役割

- ① **社会教育施設** → 地域における学習拠点・活動拠点
- ② **学校** → 地域住民の学習活動の支援、活躍場所の提供
- ③ **大学** → 専門性の高い学習機会の提供、リーダー養成
- ④ **民間組織** → 活動機会の提供、意欲と活動のマッチング
- ⑤ **雇用主** → ワーク・ライフ・バランスの推進
- ⑥ **市町村** → 関係機関の連携促進、多様な機会の提供
- ⑦ **都道府県** → 市町村の先導的な施策の支援、条件整備
- ⑧ **国** → 基本的な方針等の策定、地域間格差の是正 等

